

川西の古い道標めぐりコース（新中部編）

令和元年（2019）9月14日（土）12km
一般向き 適度なアップダウンあり

③ 池田道にあった道標（建立年 不明）
真ん中の一番大きな道標は、能勢地方から山原・畦野を経て池田方面へ通じていた池田道に置かれていた道標で、現在の鳴尾ゴルフ場あたりに建てられていたと思われます。上野は猪名川町静思館付近の字名で江戸時代は上野村でした。

④ 加古川の舟渡し場の道標（建立年・不明）
なぜ 10 里（約 40 km）も西にある加古川の重たい石の親柱風のものがここにあるのかは分かりません。

⑤ 墓碑に刻まれた道しるべ（嘉永二年西暦 1849）
柳谷の地区墓地入口に柳川利助の墓碑が建てられていて、その基壇右端に道しるべが刻まれています。もとは柳谷村入口付近の中山道にあったものをこの地に移したようで、この人は柳谷村出身者、常盤山門弟の力士だと伝えられています。

B 若宮（わかみや）
14 世紀の南北朝時代、足利軍に敗れた後醍醐天皇の皇子は満願寺の裏山の奥深くにあるこの地に側近と隠れ住んだという話が伝わります。15 歳で崩御、墓をつくって丁寧に祀ったものの、北朝の足利側に探知され破壊されました。後に皇子を偲んで若宮の地名が生まれ、皇子の墓地跡が今の子安地藏尊堂の地といわれています。満願寺は正中二年（1325）に後醍醐天皇の勅旨によって勅願寺となっています。

⑥ 若宮の分岐点に残る道標（建立年 不明）
後醍醐天皇の皇子ゆかりの若宮地区の出入口付近にあります。道標のすぐ先の分岐を右へ進めばツツケ峠越えて満願寺や巡礼道へ繋がります。やや左に直進すると愛宕山の山裾を東へ進んで⑦が立っていたと思われる分岐点に行けるようです。

C 力士の墓碑（天保十四年西暦 1843）
前述の柳谷地区同様、若宮地区も山深い隠れ里のような場所でしたが、相撲興行が盛んだったようです。それを示す力士、大坂常盤山猪名川取り締め配下、龍田川部屋、若緑榮蔵の墓碑です。ツツケ道と池田道の合流する付近に建っています。近くを流れる紺青谷川（こんじょうたにがわ）の名前は多田銀銅山の中でも紺青石が多く採れたことに由来するようです。

② 猪名川町にあった道標（建立年・不明）
②③④ともに店舗敷地内の駐車場脇に大切に保存されています。右側が一番小さな道標は、左へ行くと槻並村、右は山の中ということから、猪名川町槻並の手前にある烏帽子岩橋あたりの分岐点に立っていたものと推測されます。

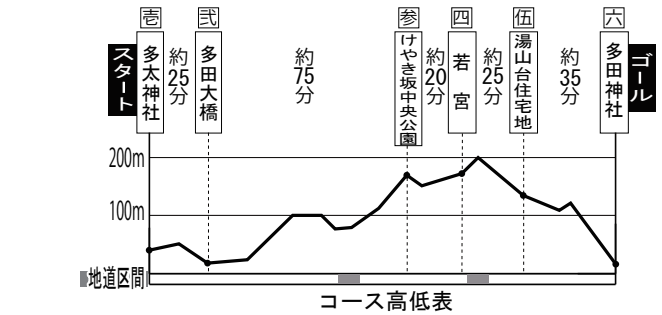
保存版

すくい
A 寿久井の地藏尊（通称：駒塚地藏尊）
源満仲（みなもとみつなか）の九頭竜伝説のひとつ。領地の巡視途中で年老いた女性が現れ、乱暴な龍を退治して欲しいと贈られたのが龍馬（りゅうめ）という頭に角が生えた馬。ひと鞭で千里を行き来して疲れない珍しい馬で満仲はたいへん可愛がっていました。龍馬が年老いて死んだ後も多田院に近い移瀬にお堂を立て弔ったと伝わります。
【車道を渡る際は左右の車にくれぐれもご注意ください！】

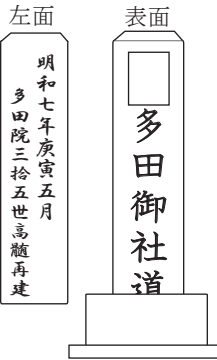
① 銀山と芋生への道しるべ（元禄六年西暦 1693）
芋生川に架かる芋生橋北詰から旧道を上流へ 100m 程進んだ位置に地藏尊が南面して建てられています。像全体が肩のあたりで横に割れたのを修復して赤い涎掛けで化粧直しされています。その下の光背に道しるべは刻まれています。

⑧ 石垣に埋もれた道標（建立年 不明）
県道川西篠山線を越えて浄徳寺に至るまでの三叉路の民家の石垣の一部に使われているため、他の面は確認ができません。もとは当時の多田院から満願寺への参詣者のために地面に建てられたものだったのでしょう。現在は左へ進むと県道に進路を遮られてしまっていますが、その先には今も満願寺道が続いています。【見落とし注意！】

⑦ 満願寺と若宮への道標（建立年 不明）
祠の中に祀られている地藏尊の下部に道しるべが刻まれています。もとはもう少し西側にある下池の東あたりに満願寺と若宮との分岐点にあったものと思われます。



E 多田院参道の道標（明和七年西暦 1770）
江戸時代、大坂・池田方面から能勢街道沿いに古江と東多田の間にある横山峠を越えて多田院へ参詣する人たちのために建てられたものです。銘文によると古くからあった道標をこの年に再建したことが示されていますが、再建時の位置は定かではありません。摂津名所図会には多田川（猪名川）沿いの参道脇によく似た石標が見られます。



⑩ 石垣の一部になっている道標（建立年 不明）
四代將軍家綱公が再建した東門を出て多田駅への車道沿いに進んですぐ、河原へ降りる古い石段があり、道標は階段右側の石垣に埋まっています。この対岸に旧満願寺道があり、⑨⑧の道標とも主旨が一致します。もとは参道脇に建っていたのでしょうか。

⑨ 猪名川増水に渡し舟の道標（建立年 不明）
妙見宮への立派な献灯が残る脇を入ると猪名川に出ます。江戸時代頃までは簡易な木製の橋が架かるだけで大雨の後などは川が増水して使えなくなったことがしばしばあったのでしょう。かつては献灯のある場所より西側のタバコ店角に建っていましたが宅地造成で毀損し、現在は多田神社に横にして保管されています。

～ 注意事項 ～
◎参加者のけがや他に与えた損害などについては、当社は一切の責任を負いません。万一事故が生じた場合の費用は参加者負担となります。
◎係員の指示及び注意事項は必ず守ってください。
◎天候の急変等、主催者の判断によりコースを変更する場合があります。あらかじめご了承ください。
◎道標周辺の家屋、施設などに迷惑の掛からないようにご配慮願います。
スタッフへの緊急連絡先：090-3490-3044（当日開催時間中のみ）

参考文献：かわにし ふる里散歩 3 川西市 発行
川西の歴史散歩 山田裕久 著
地名の川西史 菅原 巖 著
川西ええとこ絵図 NPO 法人 川西再発見 発行
主催：能勢電鉄